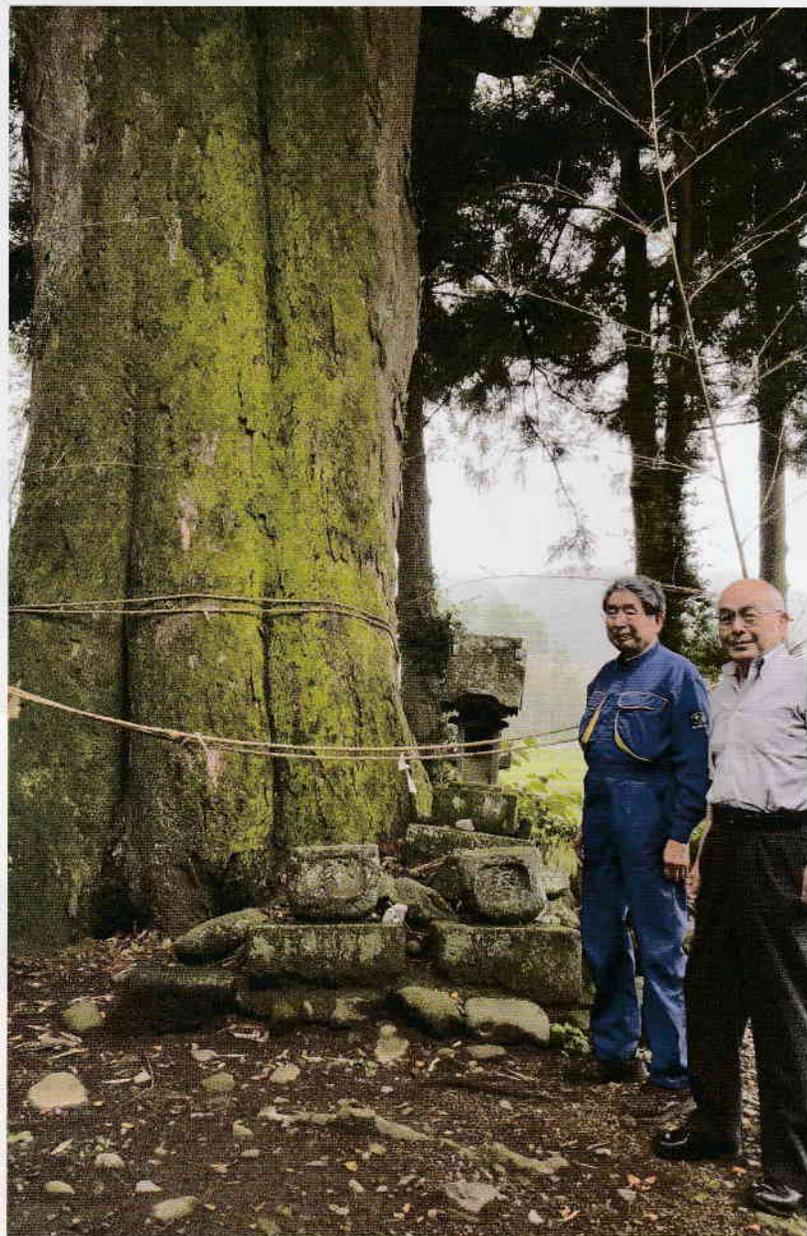




椿名神社



椿名神社のケヤキ



市川監事（左）と中澤事務局長（右）



軽トラが似合う市川監事

共通だと思えます。それを緩やかに文化としてつなげていく。私たちも群馬の片田舎で地域の仲間と緩やかに文化を育てていきたいと考えています。

——最後に市川さんのお好きな巨樹は？

市川 そうですね。強いて挙げるなら倉渕巨樹の会ができるルートともいえるべき、椿名神社のケヤキとしておきましょうか。屋久杉も宇美八幡宮のクスも桁違いに素晴らしいけど、やはり、私たちと同じ水、同じ空気できている地元の巨樹がいちばんです。

途中で中澤さんが事務所に顔を出してください、椿名神社までお付き合いました。

椿名神社へは、市川さん愛用の軽トラで移動。村長職の後に就任した新島学園中学高校の校長時代も、殆ど乗用車を使わずどこへ行くにも軽トラだったそうです。助手席の足元には林業家らしく鉈が置いてありました。

赤い小さな鳥居のある椿名神社の大ケヤキは、社殿の後方に静かに立っていました。樹高32メートル、幹周り6・4メートル、根元まわり8メートル。樹齢は400年を超えると推測され、1982年に高崎市の天然記念物に指定されています。

川の側に佇んだケヤキは、川の養分をしつかり吸収して大きく育っていました。

あたりには清涼な良い香り。思わずマスクをはずして、深呼吸をしました。ケヤキも倉渕の方たちも、こんな素敵な地域に生まれてお幸せですね。今日はありがとうございました。